

図書館員のお仕事

意外と知られていない図書館のお仕事ベスト3を紹介！！

① 蔵書点検

図書館の本が無くなっていないか、違う場所に置いていないかなどを確認する作業です。全ての本を確認する（数える）ので年に一度、図書館を1週間ほど閉館して確認を行っています。いつも以上に体力を使って汗だくで頑張ります！！



② 本の装備・修理

新しい本が届いたらラベルやバーコードを貼ります。これは本を探しやすく、また管理するために行います。最後にブッカーという透明なフィルムを貼ることで本を汚れから守ります。

図書館の本はたくさんの方が使うので、大切に扱っていても壊れることがあります。そうした本は専用のノリやテープを使って修理をします。壊れた本は自分で修理しないでね。



③ イベントの企画・運営

毎年行っている「子どもまつり」や「図書館へゆこう!!」などイベントの内容は職員が考えています。講師の先生への依頼やイベントに必要なものを揃えるため半年以上前から計画をしています。



～図書館の開館時間～

開館時間	日曜日～木曜日	10:00～18:00
	金曜日	10:00～20:00
	土曜日	10:00～19:00

休館日 毎月第1・3水曜日（祝日の場合は翌日）

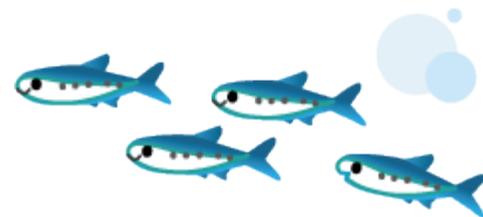
9月16日（水）～23日（水）は蔵書点検のため休館します。

大野城まどかぴあ図書館

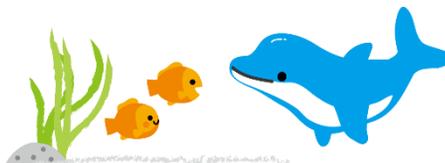
第40号
2020 夏号

10代のための図書館情報誌

わいわいばら



体験したことのない
夏が始まる



まどかぴあ図書館には、10代の方に読んでもらいたい本を集めたYAコーナーがあります。



おすすめの本



『雨の日も神様と相撲を』

城平 京／著（講談社）〔YA/F/シロ〕

相撲好きな両親に相撲取りになるべく育てられた文季。しかし、彼自身は線の細い体格で限界を感じていた。そんなある日、両親を事故で失い、叔父に引き取られることに。相撲を辞める理由ができたはずが、その村では相撲好きなカエルの神様をあがめていて、村の男子は誰もが相撲を取っていた。その上、相撲に関しての深い知識に目をつけられ神様に相撲を教えてほしいと頼まれる。さらに依頼は隣村で起きた殺人事件も関わっていて…！？



『月のケーキ』

ジョン・エイキン／著（東京創元社）〔YA/933.7/エ〕

材料は桃にブランディ、タツノオトシゴの粉、グリーングラス・カタツムリをひとつかみなど。おかしなものを使って作る月のケーキの秘密とは—『月のケーキ』亡くなった母親の遺言がどうしても知りたいけど、教えてもらう方法はどれも怖いものばかり—『羽のしおり』おばあちゃんの遺言に従っていくと—『オユをかけよう！』などちょっぴり不気味で不思議な体験が詰まった短編集です。

それぞれの希望



『木かげの家の小人たち』

いぬい とみこ／作（福音館書店）〔913/イ〕

森山家には、書庫に住む小人たちに毎日欠かさずコップ一杯のミルクをあげるという、家族で受け継ぐ秘密の仕事があった。しかし戦争が始まり、ミルクの調達が困難になっていく。自分の役目を必死に守るゆりだったが、愛国者となってしまった兄から外国生まれの小人を守ることを非難され、悩むようになる。小人たちも世間の不穏な空気に気がつき、外の世界に関心を持ち始めて…。戦争の現実とファンタジーが不思議に交わる、心に響くストーリー。

『いい感じの石ころを拾いに』

宮田 珠己／著（中央公論新社）〔YA/458/ミ〕

宝石？岩石学？それとも地質学？いいえ、石の価値なんて関係ありません。著者の宮田さんは「なんかいい感じ」というフィーリングだけを求めて、海に石ころを拾いに行きます。他にも、石ころ拾いの達人に話を聞きに行ったり、イベントに参加してみたりと、北海道から九州まで日本中で石ころ三昧。巻末に写真も満載で、眺めるだけでも息抜きにオススメの紀行エッセイです。

